

# SKYDOG<sup>®</sup> SPORT

vol.12



フリスビードッグ日本一決定戦

JFA SKYDOG CHAMPIONSHIPS

# JAPAN FINAL 2005

in NAGOYA



## CONTENTS

■ 大会レポート	.....	3
■ JAPAN FINAL 2005 参戦記	.....	6
■ JAPAN FINAL 2005 リザルト	.....	17

## JFAメンバーの皆さんへ

日本列島も北から南へと、冬将軍も居座り、寒い季節となりました。

会員の皆様、愛犬共々おかわりはありませんか？ 体調管理には十分気を付けて冬を乗り越えて頂きたいと願っています。

さて、10月8日(土)～10日(月・祝)に開催したフリスビードッグ日本一決定戦『ジャパンファイナル2005 in 名古屋』では、各カテゴリー共に緊迫した戦い、熱い応援、そして精一杯楽しんだ選手と愛犬…。一つ一つの感動、ありがとうございました。

また、一年を通しご協賛いただきましたスポンサー各社様には、多大なるご支援を賜りました事、この場をおかりして心よりお礼を申し上げます。

新年度の競技会は既にスタートをしておりますが、協会は早いもので、2006年度にて13年目に入ります。迎える2006年の干支は『犬』という事もあり、より一層「世間は犬ブーム」となる事でしょう。

また、フリスビードッグも更なる注目を浴びる事により "人と犬との共生" また "地域社会との共生" も重要となり、人と犬との関係の素晴らしさをアピールして活動する事が使命となります。

皆様も愛犬の立場を守る事の大切さを理解していただき、2006シーズンも素晴らしい一年、飛躍する年となるようスタッフ一同願っております。





# フリスビードッグ日本一決定戦 JFA SKYDOG CHAMPIONSHIPS

# JAPAN FINAL 2005 in NAGOYA

2005年度フリスビードッグ日本一決定戦「JAPAN FINAL 2005」は、日本のほぼ中心となる名古屋にて10月8日(土)～10月10日(月・祝)の3日間にわたり開催されました。北は北海道、南は九州からとジャパンファイナル各カテゴリーの全国のノミネートを受けた選手が日本一の座を目指し集いました。

## 大会第1日目

第一日目に行われたのは、ユースの部、シニアの部、ペアの部の3カテゴリーの日本一決定戦。

ユースの部は各都道府県エリア別からノミネートを受けた選手、総勢129チーム。129分の1のユース日本一を決定するとともに都道府県エリア団体優勝を決定する、まさにフリスビードッグ甲子園バトルの開催。天候の状況はやや雨が混じりながらも曇り、風は微風の中での高ポイント争いの展開となりました。1チームごとの争いもさることながら、都道府県エリアを構成するチーム全体がポイントを上げなければ団体優勝も叶わないというプレッシャーを受けながらのユースの部日本一決定戦の戦いはヒートアップしました。



決勝ラウンドを向かえ個人の部の日本一決定は堂々のトータル101ポイントを獲得した長谷川政代&ビーチ♪(ボーダーコリー/埼玉県)チーム。第3回ユースチャンプは女性チャンプとなりました。2位3位争いは決定戦にもつれ込み、2位を奪い取ったのは島津加奈子&アスラン(ボーダーコリー/福岡県)チーム。ユースの部ワンツースを飾ったのは女性という結果となりました。

また、栄えある優勝旗を手にした団体優勝は、101ポイントでの優勝チームが団体戦にも大きく貢献し、アベレージポイントも高ポイントをマークして埼玉県の優勝となりました。団体の部2位には昨年度優勝の北海道。3位には福岡県チームが入賞となりました。

7歳以上の犬とのチームで予選を勝ち抜いてきたシニアドッグの部日本一決定戦は、シニアドッグながらも元気いっぱいチームが出揃い日本一の座をめぐる戦いが繰り広げられました。25メートルのコート幅をいっばいに使用できるながらも、コートの上は公式戦並みのオープンコート。60秒間の予選2ラウンドを安定して勝ち上がってきた決勝進出チーム。決勝ラウンドは最後まで結果がわからない逆転劇も予想される中で、プレッシャーに打ち勝ち優勝を飾ったのはシニア最強のGシェパード、村上幸三&ゲルファチームでした。

ペアの部日本一決定戦では、年間の予選会における90秒1ラウンド制にプラスして決勝ラウンドを上位3チームにておこない日本一を決定します。投げ手二人と犬が一頭でのワンペアのペアの部。投げ手が変われば飛んでいくフリスビーの距離や方向も違うということで、犬にとってはタイミングを合わせづらいところですが、予選を勝ち抜きノミネートされてきたチームは見事に代わる代わる投げ手が変わりながらもコンビネーション・チームプレイがばっちり合ったチームばかり。そして見事に二人と一頭のチームワークを出し切って優勝をしたのは、2位のチームも1ラウンドアベレージ40ポイント以上を叩き出す中で勝ち取った横山まゆみ&高橋宏光&ヴァン(ボーダーコリー)チームでした。





## 大会第2日目

第二日目、天候は晴れ、汗ばむほどの陽気の中での開催となりました。二日目の日本一を決定するカテゴリーはフリーフライトチャンピオンシップとスモールドッグチャンピオンシップの2カテゴリー。この他に記念大会として開催した「JAPAN FINAL 2005記念大会」は164エントリーを集め開催されました。

華麗な演技そして犬とのコンビネーションを競うフリーフライト。全国のトップが集まる中で如何に実力を出し切るかは全てのカテゴリーにいえることです。2005年度から採用された規定演技（テクニカルルーティン）。規定の技をどのように表現しトライしていくかを競っていく、各チームが2ステージの基盤となる得点を稼ぐファーストステージ。セカンドステージの自由演技（フリールーティンステージ）で規定演技にさらに得点を重ねていくチーム。緊張の中で華麗な演技をかもし出そうとするトップレベルの戦いが演じられました。完成度の高い演技をこなしフリーフライトチャンピオンシップ日本一に輝いたのは、世界大会でも活躍を見せた林康男&愛鈴（ラブラドル）チームでした。



小型犬による日本一をめぐる戦い、スモールドッグチャンピオンシップ。2005年度より公式戦として位置づけられ、レベルアップした予選を勝ち抜きノミネートされた全国トップ20チーム。そして狭き門をくぐって復活してきた8チームを加え28チームによりスモールドッグ日本一決定戦がわれました。小型犬の大会は、ウェルシュコーギーが多い中で、近年活躍を見せてきているのがジャックラッセルテリア。フリスビーと同じぐらいではないかと思われる小さいからでダイナミックなジャンピングキャッチを見せる小型犬たち。予選上位で決勝へ進み決勝ラウンドでは、まさにジャックラッセルVSウェルシュコーギーという展開となりました。一ラウンド20ポイント後半のアベレージでのハイスコアバトルは決勝ラウンドでも要求され、安定した試合展開を見せ2005年一番強いスモールドッグの座を勝ち得たのは、上田昌二&ルナ（ジャックラッセルテリア）チームでした。



この日開催されたJAPAN FINAL 2005記念大会は、まさに3日目に開催されるグランドチャンピオンシップの前章戦ともいえるメンバーが出揃った中でハイレベルな戦いが行われました。決勝へ進むための予選ポイントは70ポイントを超えるかと思わせる戦い。優勝ポイントは114ポイントという結果になり、予選から決勝ラウンドまで目の離せない熱いゲームとなりました。ハイレベルゲームを展開し優勝を飾ったのは、望月昭吾&FLY（ボーダーコリー）チーム。この日の夜行われた2005年度表彰式典において、2005年度新人賞を受賞したチームでした。

表彰式典では、2005年度シリーズの各カテゴリーのランキング上位の表彰や特別賞の表彰などが行われました。2005年度に最も活躍したチームである名誉ある賞MIP (Most Improved Player)には、永田明美&Willie Kirkland（ボーダーコリー）チームが選ばれました。この他にも1ゲームトータルポイント100ポイントオーバーをしたチームや、日本記録を出したチームの表彰、そして1ラウンド中に10ポイント4本にもう一本を入れ、あわや10ポイント5本の新たな記録が生まれるかと思わせた一撃伝説賞が、加藤典一&富士丸（ボーダーコリー）チームに贈られました。

年々レベルアップするグランドチャンピオンシップそのノミネートランキングに位置することも大変なこと。その中で7年連続の出場を果たした仲林謙治&ロブロス（ドールマン）チームや昨年残念ながらノミネートから外れてしまいましたが、2005年度見事ノミネートを受け通算9回出場という最高齢で勝ち上がってきた、団野悦郎&ケープ（ラブラドル）チームにも賞が贈られました。表彰式典の後は恒例のパーティーが行われ、明日のグランドチャンピオンシップへの熱い思いを、そして2日目までに結果が出たチームも集まりフリスビードッグ談義に華がさきました。



## 大会第3日目

最終日、この日決定する日本一はこどもの部、レディースチャンピオンそしてフリスビードッグ最高峰のグランドチャンピオンです。朝から降る雨の中、メダル授与式が始まり、またも雨降る中でのグランドチャンピオンシップとなるか。しかしながら、次第に雲は薄れ時折雨が降る状況ながらも荒れた天候からは避けられ、レディースチャンピオンシップ、グランドチャンピオンシップ、そしてこどもの部の全てがハイゲームバトルとなる試合が展開されました。

こどもの部では低学年の部、高学年の部ともに大人顔向けのプレーが見られました。決勝ラウンドでは決勝進出チーム呼び出しでのジャッジからの説明に真剣な眼差しで話を聞き、日本一を決定する最後の1ラウンドに挑みました。ポイントの差は僅差となった低学年の部決勝ラウンドでは、小さいながらもロングスローを決めトータルポイントも99ポイントを叩き出した高木海斗&ANDY(ボーダーコリー)チームが優勝。

高学年の部では決勝進出3チームが同ポイントで進出してきました。予選トータルポイントに何ポイント加算して優勝をするのか。観戦者も注目のゲームとなり、優勝ポイントの予測は100ポイントオーバーとなるのではないかと思います。優勝はトータルポイント110ポイントで勝利を勝ち取った辻際尚子&アル(ボーダーコリー)チームでした。準優勝もトータルポイント100ポイントで三浦杏奈&CHERRY(Gシェパード)チームとなりました。低学年の部も高学年の部も小さい体でしっかりと、コート一周185メートルのウィニングランで華やかに優勝を飾りました。

レディース部門2005年度最後の決戦、レディースチャンピオンシップでは、全国から集結した総勢47チームにより、熱き女の戦いが繰り広げられました。前年は北海道、関東と圧倒的な強さを見せたレディース部門、今年の勝負の行方に注目が集まります。混戦の予選ラウンドを象徴するように決勝ラウンド進出は9チーム、予選トップは岡山の田口佳奈&LUKEが68ポイントで入ったものの、2~4位は62ポイントを持って北海道の前年レディースチャンピオン青柳愛佳選手が今年はシェビー、ライフと共に、杉本恵子選手は成長著しい555と共に追う展開となりました。決勝ラウンド、下位スタートだった関東勢の猛追で上位チームにプレッシャーがかかる中、予選2位の青柳愛佳&シェビーチームがパーフェクトゲームの33ポイント。前年の優勝ポイント90を上回る95ポイントを持って結果を待ちます。

注目のレディース部門ラストゲームは、8ポイント4本とフルマーク10ポイントのパーフェクトゲーム！プレッシャーを跳ね除け、決勝ラウンド驚愕の42ポイント、トータル110ポイントで田口佳奈&LUKEチームが見事優勝を飾り、2005レディースチャンピオンに輝きました。

フリスビードッグ最高峰のカテゴリーの日本一を競うグランドチャンピオンシップでは、2ラウンドの予選が終わるまでは決勝進出してくるチームがどのチームなのか大混戦模様で展開しました。1ラウンド高ポイントをマークしていても何が起こるか分からない。2ラウンド目で高ポイントをマークして挽回してくるチームもいる。まさにフリスビードッグ戦国時代とも言える各選手必死のプレーが続きました。

全国ノミネート64チームの中から決勝の切符を手に入れるのはわずか7チーム。予選が終了した段階で、決勝進出ポイントは66ポイント。1ラウンドアベレージ33ポイントという高レベルな試合展開の結果となりました。

決勝ラウンド、予選7位とトップの差は僅か8ポイント。全ての選手にハイパフォーマンスのパーフェクトプレーが求められることとなりました。下位のチームから決勝ラウンドがスタートし、30ポイント後半を叩き出しトップにプレッシャーをかける状況の中で、トップ通過で最後にスローイングエリアに立ったのは間禎永&Grass(ボーダーコリー)チームでした。

一投のミスが命取り。緊張とプレッシャーの中60秒間のトライが始まりました。4投までパーフェクト。後一投で日本チャンピオンが手中に入る最後の一投。安定感のあるスローイングでGrassもキャッチング成功！決勝ラウンド39ポイント、トータル113ポイントで間禎永&Grassチームが堂々の優勝を飾り2005グランドチャンピオンの座を勝ち取りました。

興奮冷めやらぬ熱い戦いも終わりを向かえ、最後のグランドチャンピオンシップの表彰式を終え、名古屋での3日間の全てのカテゴリーで最高のプレーを見せてくれたチームによる感動のドラマに幕を閉じました。最後のメイン看板前での記念撮影では、ファイナル会場の誘致にご協力いただいたクラブへの感謝をこめて「ありがとう！クラブ名古屋!!」の言葉でカメラのシャッターが切られました。JAPAN FAINAL 2005最高のプレーを見せてくれた選手、そして愛犬達すばらしい感動をありがとう。





2005年度 グランドチャンピオンシップ  
優勝 間 禎永 & Grass

決勝前の恒例のセレモニー、選手呼び出しのテーマソング『Moon Over The Castle』を、コート入り口にしゃがみ込んで聞き入っていた。決勝進出者の至福の時間とでも言ったところだろうか。普段の公式戦なら、体や緊張を解したり、プレイプランを考えたり、ワクワクドキドキ、一番好きな時間である。

「やっと辿り着いたよ…」さすがにファイナルの決勝前では、この想いしか湧いてこなかった。今回で5回目の挑戦、今までの事が走馬燈のように蘇ってきた。

直前の発熱で参加しただけの昨年を除いて、グラスはいつも完璧だった。特別な試合だと理解しているように、凄い気迫で走ってくれた。周りのプレイヤー仲間達も期待してくれていた。わざわざファイナルの会場まで応援に駆け付けてくれた方もいた。それもこれも今まですべて台無しにしてしまった。「潔い、良いプレーだった」と誉めてくれた人もいたが、未熟な自分が悔しくて、泣いた。

今シーズン、グラスの体調は良かったが、開幕初戦から躓いた。コート際でガウっていた犬に驚いたグラスはディスクを追うのを止めてしまった。それ以来、周囲を気にするようになってしまった。フェンス際のスローは厳禁。6～8 Pエリアの真ん中に投げ続けた。なんとか回復するまで2ヶ月かかった。

ようやく良くなったと思っていた矢先、再び走らなくなった。ロングに5本行っていたスピードは見る影もない。2Pエリアのスローさえ捕りに行かないこともあった…。どこか具合が悪いのかと病院に連れて行くが異常は無い。ストレス？練習では問題なく走るのに、やはり大会が嫌になったのだろうか？本人(犬)が「もう走りたくない」と言うのであれば仕方ない。大会だけがすべてではないし…。やれることをすべてやって、考えられることをすべて試して、それでもダメなら、今回のファイナルを最後の試合にしよう、その時はそう思っていた。

しかしグラスは再び輝きを取り戻してくれた。スローが気に入らないと、手元まで持ってきてくれないにはなったが、嬉しそうに大会で走るようになった。私も嬉しかった。グラスと大会で思いっきりプレイ出来るのが嬉しかっ

た。グラスのおかげで大切なことを、今年も学んだ気がした。だからこそ！

我が犬ながら、この素晴らしい相棒に、最高の勲章を付けてやりたい…。記録は、いつか誰かに破られる。しかし『グランドチャンピオン』の称号は、半永久的に日本のフリスビードッグの歴史に残る。増して、井上ゆふ～今村WEED～森MISIAと、私に大きな影響を与えてくれたチームのすぐ後に“Grass”の名前を残したかった。今年グラスも5歳。年々ベストの状態を維持するのが難しくなっているような気がする。一方で周囲のレベルは年々上がっていく。もしかすると今回がラストチャンスかもしれない。

今年は、負けられない。

プレイプランは既に朝、会場に来る前に決めていた。宿泊先のホテルのすぐ近くに熱田神宮があった。ここは、かつて織田信長が桶狭間の合戦へ向かう前に必勝を祈願したという逸話がある。そのことを思い出し、こうなりゃ神頼みだ！と会場へ向かう前にお参りをした。静寂で神聖な空間。20分ぐらい居たのだろうか、なんとも言えない澄んだ空気に触れていると、焦りや苛立ちは消え、すっかり落ち着いた。そして参道を駐車場へ歩いて戻っている時、決意と今日の試合のプランが浮かんだ。試合前の慌ただしい時間ではあったが、行ってよかった。

そしてセレモニーも終わり、いよいよ決勝ラウンドが始まった。

グラスの旦那様、宮迫アイビー君の応援をしてから入場口へ向かった。グラスを美加に任せ、スタートエリア周辺の人垣の後ろで、集中力を高める。とにかく落ち着くことに集中した。他のプレイヤーのプレイは見ないでMCの声だけを聞いていた。見れなかったと言った方が良い。見ると触発されて硬くなりそうだったから。



2005年度 グランドチャンピオンシップ

第2位 加藤典一 & 富士丸



…順番が近づいてくる。プレイプランのおさらいをする。ここまで2位と2P差のトップ通過。1R目で硬くなって2本距離が短かったが、なんとかトップと3P差の好位につけた。2R目でトップに立った。ここまで朝決めた自分のイメージ通りに来ている。あとは…

「加藤富士丸42ポイント!!」

…やはり、来たか！…。予選2位の木村さんのラスト20秒で入り口に立った。場内は相当な盛り上がりだ。先に来ていたグラスは「早よ、走らせろ！」と足踏みをしている。目は輝いていた。…これなら、大丈夫。

どんな時も崩れない木村グラーチア組が1P届かなかった。いよいよ私の順番だ！相手は決まった！私のデビュー当時から「日本最速のボーダーコリー」と言われた加藤富士丸。応援団も多い。私も、当時から尊敬していたプレイヤーだ。「俺は悪役かな？」ちょっと思った。必要な目標は37P。同じく42P出せば日本記録になる、という考えが頭を過ぎったが、これはすぐに捨てた。今までこの“欲”で失敗している。かっこ悪くても良い、今日は勝ちに行く。

「さあ、行こうか」グラスに声を掛けて、コートに出て行った。会場を見渡した。凄い人垣だが他の犬は居ない。

OK、大丈夫。あと、やるべきことは解っている。グラスの機嫌を損ねないスローで、丁寧に8Pエリアに5本！

グラスを呼びセットアップ！そして最高の1分間がスタートした…!!

結果は御存知の通りである。が、なにより、会場の皆様の祝福が嬉しかった。

「やっと、獲ったね」デビュー当時から友人に、こう声を掛けられて、涙が出た。共に切磋琢磨してきたプレイヤーの顔を見るたび、涙が出た。応援して下さった方々、支えて下さった方々、ありがとうございました。

表彰式で受け取った、歴代のチャンピオン、そして惜しくも届かなかったチームの想いが詰まった優勝トロフィーは、とても重かった…。

そして、帰りに、もちろん熱田神宮へお礼に行きました。さすがに“壁”は奉納できなかつたけど。。。

今年、シニア歳にもかかわらず富士丸は本当によく頑張ってくれました。

我がチームにとっての数々の新記録！富士丸の力なくしては成し得なかった一年だったと思います。

そんな頑張りに答えてやりたい！そしてチームとしての集大成をと臨んだグランドチャンピオンシップでした。

通算6度目とは言え、一年空いてのファイナル戦の重圧は想像を超えるものでした。そんな中、応援して頂いた皆さんの後押しもあって我がチームとしてはベストゲームが出来たと思います。

これもまた富士丸に助けられたスローが多々ありましたが、一緒に一喜一憂してくれた仲間が存在が大きかったのは言うまでもありません。本当に感謝しています。

思い起こせば、富士丸とコンビを組んで約8年。いろいろな事がありました。

中でも一番大変だったのが、キャッチした後の『カジリ!』これを直すのに3年強の年数を要しました。

それが直り始め、6歳を過ぎたあたりから年齢のせいか気力の低下…。そのモチベーションを上げようとした調整の失敗で昨年の低迷となりましたが、仲間の協力もあり予想以上の復活を成し遂げることが出来ました。

来年は、どこまでついていけるかわかりませんが、うちのチームらしさを大切にしながら大会に参加出来ればと思っております。

最後になりましたが、低迷期に助けてくれた仲間と一緒にファイナルを戦ったすべてのチーム、そして今回応援して頂いた方々と特別な心配りを頂いた本部の方々に対してこの場をお借りして御礼申し上げます。

ありがとうございました。

来期もまた宜しくお願いたします。





2005年度 グランドチャンピオンシップ  
第3位 **木村均 & グラーチア**



まず、最初に全国のプレイヤーの皆さん及びJFAスタッフの皆様、お疲れ様でした。年に一度の祭典。しっかり楽しませて頂きました。

今シーズンは仕事の都合、体調面、グラーチアのお産などなど満足のいくシーズンではありませんでしたが、悪い成りにでも結果を残せ、ジャパンファイナルに出場する事が出来、しかも表彰台にまで上がって最高の一年でした。グラーチアありがとう、あなたのおかげです。

それと、色々な面でサポートしてくれた熊本のレディース陣!! 感謝感謝…の気持ちで一杯です。ありがとう♥♥

しかし、息つくヒマもなく、2006年度シーズンですね…。今シーズンも、新たな強豪チームが出現し、一段とレベルが上がるんでしょうね。シニアの私には少々こたえますが、ファイナルめざして、置いて行かれない様楽しみながらグラーチアと、4年連続ファイナリストをめざし、頑張りたいと思います。

年に一度しか会えない、全国のプレーヤーとの再会をめざして!!

2005年度 フリーフライトチャンピオンシップ  
優勝 **林康男 & 愛鈴**

「やった！ついにファイナルで優勝した！」



フリー初出場が1998年3月愛鈴の母親ライヤと参戦、そして愛鈴とファイナル4度目の挑戦で初めて掴んだ優勝 達成感でいっぱいでした。

愛鈴も6歳10ヶ月とピークを過ぎた年齢でまさか優勝できるとは思っていません

んでした。

今シーズンを振り返ると、多くの時間を規定演技とトリックスローの練習に割きました。

特に苦労したのが、どうしてもボルトになってしまうオーバー規定本数4本+1本を構成に入れる事と、大会になると愛鈴のテンションが上がりマルティプルがテイクになってしまう事でした。

練習の成果か結果的には規定演技で高得点を上げることが優勝につながったと思っています。

ただ、残念なのは、フリーは派手さも必要だがトリックスローを交えての犬とのコンビネーションの表現が重要と思って練習してきたトリックスローが2Rフリー演技でことごとく失敗した事でした。

これからも愛犬と出来ることを少しずつやって楽しんで行きます。

最後に本番で4本のバタフライを全てキャッチしてくれた愛鈴に感謝（涙）しています。



2005年度 フリーフライトチャンピオンシップ

第2位 石田義弘 & Rusty



チャンピオンシップが終わり、何だか大きな穴がポカッと空いた気持ちです。フリスビードックを始めたきっかけはZONEを観て、人間と犬との絆に感動！ Rustyとディスクを始めてから早2年4ヶ月、日々練習を重ね頑張った甲斐あって、昨年同様、準優勝とフリーシリーズチャンピオンを頂き嬉しく思っています。

今年からルール変更が有り前半は点数が伸び悩み後半は参戦する度に点数が安定する様になりました。大会当日、やはりハンドラーは反省！ コマンドミス、トスミスと風を気にし過ぎて規定演技が〜ぁ。今は後悔の嵐。(あ〜ぁ涙) 勝負の世界は厳し〜い。

この2年間、難波&マギーチームと共に、練習、参戦してきましたがお互いが良い刺激になり2位、3位を頂けて本当に嬉しいです。また応援して下さった、isoさんうみ風軍団、フリー、他の皆さんありがとうございましたぁ。

今回心に残った演技、難波&マギーチーム、飼い主が努力すれば犬は必ず答えてくれる事を…。

難波さんは口癖の様に言ってたねスーパーカーがRusty、マギーは軽自動車だなんてね！ 改めて、やっぱりマギーは凄いヨ！ 頑張ったすべてのワン子に乾杯！ ありがとう。

2005年度 フリーフライトチャンピオンシップ

第3位 難波輝一 & Maggy

## ■ 2005年シーズンを終えて

2005シーズンからフリーフライトの内容が大きく変わりテクニカルルーティンでは苦戦しましたが、石田ラスティーチームの素晴らしいプレーを参考にその背中を夢中で追いかけてファイナル権ランキング2位を掴む事が出来ました。

今シーズンの我がチームにとって、目標としている石田ラスティーチームと一緒に遠征出来た事がとても良い影響を受けることになりました。

## ■ ジャパンファイナルを終えて

ファイナル当日、マギーのコンディションは絶好調。僕さえしっかり投げればきっと上手くいく。

1Rのテクニカルルーティン、僕のミスをマギーがカバーしてくれた結果2位に付ける。

捲かれるかも…という緊張感も2Rを前にマギーを見つめていたらそんな気持ちもどこかに飛んで行った。

いつものように楽しくやろうじゃないか。何位になっただけいい。僕等のフリーをやろうじゃないか。

フリーラウンドでは全てのチームみんな素晴らしかった。僕とマギーもめいっばい楽しんだ。

結果は3位入賞。

ジャパンファイナルで入賞する。僕がフリーをはじめたばかりの頃からの目標のひとつでした。それをマギーが叶えてくれました。マギーありがとう。

我がチームはまだまだ未熟で技量もなく、半人前を二つ足せばやっと一人前のチームです。小さなマギーが僕を信じて全力で走って跳んでくれる。僕もマギーを信じて投げる。

僕とマギーの絆。それが僕の表現したいフリーです。これからもマギーと共に夢を叶えて行きたいです。



photo by iso



2005年度 レディースチャンピオンシップ

優勝 田口佳奈 & LUKE

LUKEとは、2度目のジャパンファイナル。

今シーズンはあまり大会に出ることができませんでした  
が、運良く7戦全勝、そしてファイナルでも優勝するこ  
とが出来ました。

今年のファイナルは去年とは違い、自分達のBestプレー  
ができたと思います。

2ラウンドで1投のミスはあったものの、1ラウンド38  
ポイント、2ラウンド30ポイント、ファイナルラウンド42  
ポイント、合計は110ポイントという、LUKEとの自己Best  
記録で優勝。特に、ファイナルラウンドの42ポイントは本  
当に嬉しかったです。

今シーズンを通してこんなに良い成績を残せたのも、一  
緒にがんばってくれたLUKEや、陰で支えてくれた、お父さ  
ん、お母さん、LOVE、SENN、そして、応援してくださ  
った皆様のお蔭だと思っています。

来シーズンはLUKEと公式オープン戦にデビュー。どこま  
で通用するかわかりませんが、見ている人達が驚くような、  
感動するようなプレーができればいいなと思っています。

来シーズンも沢山の方々と楽しみながらプレーしたいと  
思っているのでよろしくお願いします。



2005年度 レディースチャンピオンシップ

第2位 青柳愛佳 & シェビー・ライフ  
第3位



ジャパンファイナル  
お疲れ様でした。

今年は遠征に2回し  
か行けずに、北海道大  
会4大会と併せて6大  
会のみに出場したの  
で、ファイナル権は難  
しいと思いましたが必  
死で頑張りあまり大会  
を楽しむ余裕ありま  
せませんでした。

何とかシェビーとライ  
フとのペアでファイナル

出場が決まった時は、ファイ  
ナルでは1年間笑って  
楽しめなかった分、とにか  
く楽しもう!と心に決めて  
参加しようと思いました。

ライフとは3回目、シェ  
ビーとは初出場…。それ  
ぞれ1年間色々な壁に  
ぶつかりながら本当によ  
く頑張ってくれました!!

ファイナルでは目標  
だった2頭決勝進出も  
果たせて、本当に嬉し  
かったです。

来年もジャパンファイ  
ナル出場を目指して楽しく元気にそして大切に一戦一戦を  
頑張っ参加できればと思っております。

最後に…、

今年もいつも一生懸命に頑張ってくれたライフ・スヌー  
ピー・シェビー・サラありがとう!!!



## 2005年度 スモールドッグチャンピオンシップ

### 優勝 上田昌二 & ルナ

敗者復活からジャパンファイナルに出場できるようになり、このような結果が出せるとは思いませんでした。

1ラウンドを終えて、昨年のユースのこともあり、2ラウンドは捕らせるスローを心掛けたのですが、スローはパッとせず今回はルナに助けられ、決勝も最後の1投を良く捕ってくれました。

ルナも6歳になり、これからもルナと一緒に楽しんでプレーできればと思います。

敗者復活で応援して下さった皆様、ファイナルで応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

1ラウンドは、レディーゴーの合図の後ルナがコーンの外を回り、「おいおいどこ回ってんねん」と思いながら呼び戻し、何とか3投できました。

2ラウンドRは、風の影響を受けディスクは安定しなかったがルナに助けてもらい徐々に4投でき決勝に行くことができました。

ファイナルラウンドは、1投目は良かったのですが、2投目外に出し、3投目終えて戻ったところで残り数秒、なんとか4投目を投げることができましたが、そのときにルナは、スタートラインから出ようとしていたので少し高めに投げたのですが大きく右に曲がりそれを良くキャッチしてくれました。

今回、私のスローが安定しなかったのをルナが良くカバーしてくれました。



## 2005年度 スモールドッグチャンピオンシップ

### 第2位 植田幸男 & バニラ



JAPAN FINAL in NAGOYA フリスビー犬日本一決定戦。JFA2005シーズンから小型犬の競技も公式小型となった大会で準優勝でき、本当に嬉しく思っています。

一緒に戦ってきた方々、応援して下さった方々、JFAスタッフの皆様本当にありがとうございました。

2005シーズンを戦っていく中で、バニラとのチームワークを重点におき、小型犬でも取りやすいスローと、バニラとのリズムを作るように、自分たちのスタイルを作ることを中心掛けていました。

その結果、自分たちの目標のポイントも出せるようになり、ファイナル出場権を得ることができました。

JAPAN FINALでは、とても緊張しましたが、そのスタイルを維持することを心がけ、3ラウンド合計で自己ベストを更新することができました。

自分の2投のスローミスが残念ではあるけれど、この大きな舞台で戦えたこと、そして、この結果に満足していません。

最後に、どんな時も一生懸命走ってくれたバニラに…、一緒に戦ってきたシオに…ありがとう。

来シーズンも怪我等のないよう、バニラとfrisbeeを楽しみたいと思います。



2005年度 スモールドッグチャンピオンシップ  
第3位 藤原親 & ハジメ

見事に記憶に残っていない真っ白なファイナルゲームでした。これほど緊張するとは考えてもいませんでした。そんな緊張感を味あわせてくれたハジメ君には、本当に感謝です。

感謝と言えば、決して忘れられない人達があります。それはやはり奈良チームです。思い起こせば、やんちゃ過ぎるハジメ君を制御する為、奈良郡山警察犬訓練所に通い、武田所長の指導の元、私がハジメ君に服従を仕込んでいました。

そんな4年前のGWに訓練所のBBQパーティーで、富永(アンリ&ライリ)さんと知り合い、ハジメ君と私にとっては初めてフリスビーに出会ったのです。それから約半年後、3歳になったハジメ君がフリスビーに関わることになってしまいました。

夜間練習場になっているサッカーグラウンドに足を運び、富永さんには投げ方やルールを教わり、正木(さくら)さんにはフリスビーの楽しさを教えて頂きました。

そんな仲間に囲まれて何も心配する事なく、絶好調で愉快にしていたのですが、昨年の4月から東京に転勤する事になりました。2004年度は前半に頑張ったお陰で、何とかファイナルに行きましたが、今年度はそうはいきませんでした。

娘の大学受験の関係から、私はほぼ単身赴任状態になりました。ハジメ君とは散歩もできず、ましてやチーム練習すらできませんでした。前半の半年は1ラウンド突破が本当にできず、スタスタな成績な上、慣れない土地での大会だけに夫婦二人でそそくさと撤収した事が何回もありましたし、関西の大会に出ても決して良い成績は残せませんでした。

所が、3月下旬から家族全員で暮らせるようになってからは、驚くほど成績が上がりました。下手くそな投げ手にもかかわらず、天性のフリスビー好きなハジメ君には幾度ではなく、いつも助けられましたし、東京でも『ハジメちゃん!』と声をかけてもらえる様にもなり、どんどん楽しくもなりました。

そんな一年ただだけに、今回のファイナル出場はひとしお嬉しいものでした。

楽し過ぎた奈良から離れ、1ラウンド突破もできない状態からここまで来れたのも、奈良チームの陰日向のない応援と、天真爛漫に走るハジメ君の姿があったらと思います。

それだけに、頑張ってみんなの応援に答えなくてはと気合が入って、入って入り過ぎて、見事に真っ白になってしまい、ゲーム直前ではイスにも座っていませんでした。

1ラウンド目、記憶にあるのは先に投げたチームの退場時の後姿だけで、紹介は全く聞こえておらず、自分で入場する時を決めていました。

2ラウンド目、ハジメ君がファンブルした瞬間だけを記憶しています。多分、一瞬我に返ったのでしょうか、結局、前後不覚。

決勝戦にいたっては、全く記憶がありません。これを人は『蚤の



心臓』と言うのでしょうか。

ビデオ撮影していた方を探し出し、写真を持っている方を探し出し、途切れた記憶を繋ぎ合わさなければなりません。まだまだ私のファイナルは終わりません。

最後になりましたが、応援して頂いた皆様、奈良チームの皆様本当にありがとうございました。

表彰台に立てた事は皆様のお陰と感謝致しております。今後ともアドバイス宜しくお願い致します。

そして、ハジメ君へ、本当にありがとう!

2005年度 ユースオープンの部(個人戦)

優勝 長谷川政代 & ビーチ♪

JAPAN FINALを終えて



ファイナル初日、私にとって、もちろんビーチ♪もはじめてのユースでのファイナル。1ラウンド31、2ラウンド36、ビーチ♪のこの日の集中力は怖いくらい。そして「スパーードックビーチ♪ど肝を抜け!」とヤンさんの声ではじまった決勝ラウンド。

4投キャッチから戻ってくるビーチ♪のうしろから「のこり15秒」のアナウンス。「よし、行ける!絶対に6投入れるよビーチ♪!」決勝のポイントよりも私達チームの形で、最後になるユースでのラウンドを終わらせたい。ユースで成長させてもらったビーチ♪の力をみんなに見てもらいたかった…。

「まかせて!かあちゃん」と走り出すビーチ♪。5投目は多少短めに…、戻りの速さが特色のビーチ♪。2秒残して6

投…、見事にキャッチ！ 6投6キャッチ…、34ポイント。  
何とか思ったとおりの…、今私達にできる最高のゲーム  
ができた瞬間でした。

結果として個人・団体ともに優勝。私達にとって最高の  
ファイナルとなりました。雨の中応援してくださったみな  
さん。ありがとうございました。

## ■ 2005年シーズンを終えて

2005年1月、7ヶ月のビーチ♪とレトリブでデビューさ  
せていただいてからビギナー、チャレンジそして4月にユ  
ースへと…、子犬だったビーチ♪の成長の早さに戸惑いなが  
ら、まだまだチームとしての形を模索しつつの参戦でした  
が、私にとって一番思い出深いのはやはりユースでの経験  
でした。ユースオープン大会は他のクラスと違い、常に以  
前の自分の成績との戦い。自分の記録を超えていく…、そ  
れが私にとってはとても励みになりました。また県別対抗  
という面から、それまであまりお話したことのなかった同  
県人の方とも話すきっかけとなり、「みんなで200ポ  
イント以上を目指そう」とポイントに目標をお互いに

励ましあえる関係に…、そんな頑張りで集まったユース埼  
玉代表チーム。そのメンバーで団体優勝。今シーズン一番  
の思い出です。

怒涛のように過ぎた2005年シーズン。ユースを卒業後は  
レディースに参戦、当初はプレッシャーに押しつぶされそ  
うになりながらも、ビーチ♪と皆さんの励ましのおかげで  
数々の忘れられない大切な思い出を作ることができました。

最後になりましたが、マリンとのチームのころから暖か  
い応援とアドバイスをくださった方々に、この場を借りて  
お礼を言わせてください。今こうしてビーチ♪と頑張れる  
のはマリンとの日々があったからと思っています。決して  
あきらめない。結果はすぐにはでなくても、頑張った日々  
がきっと最後に自分を支えてくれる。皆さんが教えてくれ  
たことを大切に、私はこれからもそう思って一歩ずつ進ん  
でいきます。こんな私達ですが2006シーズンもよろしくお  
願います。

マリンママ&ビーチ♪

## 2005年度 シニアドッグの部

### 優勝 村上幸三 & ゲルファ

私とゲルファがフリスビーを始めたの2年前、2003年の神  
戸でのファイナルを観戦して大勢のファイナリストの競技に  
感動して其の時会場でJFAの会員に入会したのが始まりです。

ゲルファは現役の囃託警察犬で訓練の後の褒美にフリス  
ビーを投げて遊んでやる程度でしか経験が無く自分自身が  
スローイングを1から覚えて後は諸先輩方に教えを請い自  
分なりに考えて練習してようやく此処まで来て～以来各競  
技会に参加するも何時も場外に連発をした事しか頭に残っ  
ていません。でもフリスビーが大好きなことでは誰にも負  
けないゲルファと一度は夢の舞台に立ちたいな～と思い1  
年間頑張っついでに名古屋に来ることが出来ました。

1ラウンド、2ラウンドと順調にあまり気負う事も無く  
来たが決勝ラウンド進出決定のコールでようやく我に帰っ  
た感じでは「悔いの無いように何時もの練習の時のよう  
に」を心掛けて出番を待つ間4人の方の素晴らしいスロー  
を観ながらただ感心して居たら自分の出番～周りの知人か  
らの声援がこんなにも大きく聞こえたのはやはりファイ  
ナルのせいかと改めて感じました。1投目のミススロー「こ  
れで分からなくなった」とMCの声が入ったが気負う事  
事も無く此処まで来たからには後は自分とゲルファのタイ  
ミングのみを頭に悔いの無い試合をしようと言う思いがよ  
ぎった、其の時MCの「ジャーマンシェパード史上初制覇なる

か」の声が聞こえた、このタイトルを取らしてやりたい～ゲ  
ルファ捕ってくれ～と心の中で叫んでいました。

5投目をキャッチで「優勝」とラストコールを聞いた時  
は思わずガッツポーズが出た、退場口で待っていてくれた  
知人の方々、ウイングランの時の本部の方々、中国地区  
チームの方々、会場の皆さんから「おめでとう」の連発で  
ウイングランの疲れも忘れて走りました。

1年間頑張ってきてよかった～。応援して下さった皆さ  
ん有難う御座いました。

最後に「ゲルファ」本当に有難う！

JFAの皆さん、又会場の準備をして頂いたクラブ名古屋の  
皆さん素晴らしい会場で最高のプレーが出来たことを心か  
ら感謝いたします。





2005年度 ペアの部

優勝 横山まゆみ・高橋宏光 & ヴァン

あっという間に終わった2005シーズン。

シーズン途中から横山さんと参戦したペア大会。

お互い一緒に練習する機会がなく、いつもぶっつけ本番のペアでしたが、ヴァンに助けられて、夢のファイナル出場へ。そして、この大舞台でも全てパーフェクトキャッチを見せてくれたヴァンに感謝、感謝!!

素晴らしい結果で2005シーズンを締めくくれたことは、我が家にとって最高の思い出になりました。

また、来シーズンもヴァンと一緒に楽しみたいと思います。

ペアでコンビを組んでくれた横山さん。そして、応援して下さいました皆さん。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、JFAスタッフの皆様。2005シーズン大変お疲れさまでした。来シーズンもよろしくお祈りします。



2005年度 こども(高学年)の部

優勝 辻際尚子 & アル



今年一年のシーズンは、お父さんの仕事の都合で5大会ぎりぎりでのジャパンファイナル出場でした。ジャパンファイナルに出場できただけでも嬉しいのに、優勝できたなんて!! とてもうれしかったです。

今まで、投げ方とか犬の飼い方とかいろいろ教えてくださった、OFDCのみなさん、兵庫支部のみなさん本当にありがとうございました。

最後に仕事を他の人に代わってもらって、名古屋まで運転してくれたお父さん!! ありがとう!! めちゃくちゃがんばったアルありがとう!!

来年も一緒にガンパローなあ!!

2005年度 こども(低学年)の部

優勝 高木海斗 & ANDY

シーズン初めの頃、ほく9才・ANDY1才。初めてペアを組んだ出場したのは2004年11月、長崎島原大会でした。

タイミングが合わなかったり、ほくが場外に出したりと失敗が多かったほくたち!! こんなほくたちが日本一になって、どうもうれしいですv(^.^)v

はじめて出場するジャパンファイナル。

全国からたくさんの方がきていて、とてもドキドキしました。でも、みんなのおうえんで落ち着いて投げることができました。

ジャパンファイナルに出場できたことは、ほくの一生の思い出です。そして、ANDYに出会えたことも!!

最後にたくさんおうえんしてくれたみなさんありがとうございました。



2005年度 年間シリーズチャンピオン

## 小寺 賢 & LAH!

### ■ 2005年シーズンを終えて

皆さんFINALを終えて、のんびりワンコ共々休息に当てている方、次のGAMEに備えている方、溜まっている仕事に取り組んでいる方…。様々だと思います。うちは仕事派かな？

一方、おかげさまでシリーズチャンピオンをLAH!子とのTEAMで獲得することができ、FINALも終わってしみじみと、楽しかったけど 疲れたな、と回想しているところです。

開幕のシリーズ戦で優勝して、勢いで突っ走ったと思われるかもしれませんが、“当初は「今年は楽しくGAMEをしたい」 思いが強く、前半は無理しないで、参加しない” 大会も結構ありました。前半はパッセTEAM。後半はセナTEAMを目標にPLAYしてきたわけですが、何度も「今年はもうダメか!?’とあきらめかけたこともありました。

また何度かGAMEを途中で棄権したり、公式戦のGAMEの中でレトリブの練習をしたりと不快な思いをされた方もいたかと思います。それほど我がTEAMは不安定だったということです。最後のFINALまでついに適応できなかった、今シーズンから変更になったレトリブルールにはほとんど苦労しました。とにかく投げれずに終わるという虚しさはかなり応えましたね。

シーズン前半は1発狙ってGAMEしていましたが、後半はシリーズチャンピオンを意識して、とにかく3位以内に入ることを心がけました。LAH!子は、はちゃめちゃんながらよく頑張ってくれたと思います。彼女のSPEEDとキャッチングセンスに依るものだと思います。

またLEEもシーズン前半こそ「うひょ族」の本領発揮で、どうなることかと思いましたが、後半はLAH!の上をいく安定した結果を数々残してくれました。6年以上付き合っても未だに彼女の操縦法はわかりません。ただ、LAH!子でダメでもLEEが慰めるように活躍してくれて随分癒されました。



(撮影：RIE)

これだけ年間にGAMEがあった年はなかったと思います  
が…。

LEEが三本君の決勝PLAY中に乱入した夢の島大会。

LAH!が雷を急に怖がり走らなくなった軽井沢大会。

見事に復活してくれた小岩井大会。

あっと驚くLEEの優勝だった札幌大会。

LEEもLAH!も優勝できた木祖村の大会。

などなど 思い出に残るシーンが蘇ります。

2006年シーズンはもう少しペースを落として楽しめるように、また 今年あちこちで会ったワンコたちにまた会えるように、参加していきたいと考えています。

最後に本部スタッフはじめ、運営に携わる全ての支部、クラブの皆さん、お疲れ様でした。もっともっと選手の言うことを聞いてワンコに優しい、皆が楽しめるイベントにしていって下さい。

### ■ ジャパンファイナルを終えて

2005年度のファイナルは昨年に続き、LEEとLAH!の2頭体制で臨んだ。昨年は2頭ともよく頑張り、LAH!が3位、LEEが次点の8位で決勝に連れてってくれたので 今年も自分としては我が娘達に大いに期待して名古屋に乗り込んだ。

特にLEEは6.5歳ということもあり、何とか今年はグラチャン決勝に残してやりたい気持ちが強く、彼女好みのDISKを本番前からシミュレーションして結構集中してGAMEに備えていた。結果としては残念な結果に終わったが、GAMEのサマリーとしてここに残しておきたいと思います。

……………《LEE編》……………

#### ○第一ラウンド

登場はランキング13位なので後半になる。LEEのすぐ前は強豪；望月フライTEAM。後半のTEAMは風向きが変わって向い風でのGAME。なかなか各TEAM 距離が伸びない。望月さん、さすがにうまくまとめて32ポイント。これに続く形で2Rに勝負をかけるべく最低同ポイントをとれるGAMEの組み立てを考えながらコートに入る。

この程度のコートの状態なら決勝通過ラインは合計68ポイントは欲しい。LEEは戻りキャッチのため、3本はロングゾーンに投げ込みたいところ。

風は左からの向かい。レトリブが悪いので今日は1投目から切れよくロングに投じる。思ったより上空の風は抵抗が強く、高さを出すと戻される。

想像以上にDISKのSPEEDが上らず全て戻りキャッチで5本キャッチにも拘らず30ポイントで終了。やや不本意ながら2R勝負はできるのでよしとする。



○第二ラウンド

思ったより各TEAMのポイントはのびていなかったが、LEEの時点で決勝ボーダーは65か66。目標は38ポイント=ロング5投が彼女には必要。テンションが異常に高い子なので、RISK承知でガス抜きをほどほどにコートに入る。SPEEDを殺さないためだ。

風は追い風ながら右へ流れる癖のある風。コートも右側がやや段差があり、真ん中から左を使いたいところ。投げたDISKの頂点からやや左へ切れるDISKをイメージして1投目はコートに投げ込む。イメージ通り8ポイントゾーンでホバーして左に落ちてくる。LEEもよく見ている。が、これをLEEさんファンブル！

ここで一気にプラン崩壊！あとはDAED ENDに3本必要!? 「そりゃないぜっ」って感じて速いDISKを投げていかないと間に合わない。何と2投目もファンブル。この時点で今シーズンのFINALはあきらめなければならなかった。あとはLEE子さんと2投遊んで今シーズンを終了、LAH!子とのGAMEへ向けて気分の切り替えだ。

..... 《LAH!編》 .....

○第一ラウンド

No.1のフィブスをいただき最後の登場。超気持ちよかった。

ランキング3位のグラスTEAMが35P、2位のセナTEAMが38P! さすがにナイススローでうまいGAME作り。特に手元が素晴らしく、間をもって投げ込んでいる。羨ましい。LAH!子は手渡しどころかレトリブルールにとことん引っかかるので、ギリギリまで手元の練習。頼むからライン上にDISKを置くな!

目標は36P! ロング3投+ミドル2投でいい。最初と3投目とラストスローでロングを入れて、あとは何とか持ってこさせることに集中しよう。

1投目、2投目はうまくいった。3投目はDISKを置かれた場所が遠く、拾った時点で15mルールに抵触しそう。リストだけですぐに投げて何とかミドルへ。

4投目も同じパターンでミドル。ラストスローは何とか投げさせてくれてロングでやれやれと思ったら、なんとLAH!子さんファンブル。ちとスローが低かったか!?

「あちゃー」の25ポイントで2Rへ。まあ、全部STARTラインよりは中へ持ってきたのでよしよし。

○第二ラウンド

決勝へは41P必要。最後の登場はこういう時にわかりやすくてよい。「大丈夫、今シーズン41Pは出している」と自分に言い聞かせいざコートへ。しかし1ミスも許されない。DEAD1本必要なのでやるなら1投目しか我がTEAMにはチャンスはない。

右の高いところから回せばDISKが一番飛ぶ。しかしやや追いから右風になりつつあるのでRISKが大きい。悩んだがフラット気味でSPINで飛ばすことを選択。これが裏目だった。あとでビデオで確認したら何とかDEADまで向かっていったがLAH!に途中で追いつかれ、これをファンブル! ウゲゲ、終わっちゃったよLAH!

今年はミススローを何度もLAH!に救われたので仕方ないか。一気にテンションが下がり後は楽しむしかないのだが、急降下する私のテンションをLAH!子に悟られ、START LINEのセレナーデ状態で今シーズンを終了。実にLAH! TEAMらしい終わり方であった。

決勝は応援しながら見ていたが大変楽しい、素晴らしいFINALだった。九州のTEAMは割と上からDISKを落としてくるが今回のコンディションには合っていたようだ。

皆さん捕りやすいDISKを投げていた。メモメモ。

残念ながら今年決勝へは参加できなかったが、レベルの高い素晴らしいFINALでした。

まずは またあの場所へ出れるように頑張りたいと思います。各カテゴリーの全ての参加者の皆さん、素晴らしいGAMEをありがとう。

また来年お会いできるように頑張りますよ!!!



(撮影; R I E)

## 10.8 ユースオープンの部チャンピオン決定戦(個人戦)

1	長谷川政代	ビーチ♪	埼玉県	ボーダーカラー	101
2	島津加奈子	アスラン	福岡県	ボーダーカラー	83(27)
3	菊地 真	ソラン	埼玉県	ボーダーカラー	83(24)
4	直江 薫	わん	愛知県	タルマシアン	82
5	中村 貴裕	ルフィー	和歌山県	ボーダーカラー	74
6	谷越久仁夫	Modern	岩手県	ボーダーカラー	73
7	山田 昌和	ヒュー	岐阜県	ボーダーカラー	71
8	田中 安夫	エアフェアリイ	群馬県	ラブラドル	64
9	長田 憲幸	GRAN	兵庫県	ボーダーカラー	55(36)
10	藤成 健	LEMON	山口県	ボーダーカラー	55(22)
11	新妻 健一	ゲンキ	福島県	ボーダーカラー	53(26)
12	佐藤 謙	雅	静岡県	フラットコートッド	53(25)
13	笠原 崇司	ブライト	群馬県	ボーダーカラー	53(24)
14	後藤 公彦	雅楽	埼玉県	ボーダーカラー	52(26) <sup>[7]</sup>
15	小祝 英二	王子	茨城県	ボーダーカラー	52(26) <sup>[6]</sup>
16	須貝 信也	タフィー	岐阜県	ボーダーカラー	51
17	瀧浦 慶郎	エール	大阪府	ボーダーカラー	50(34)
18	西川 順子	ウィータ	熊本県	ボーダーカラー	50(28)
19	河村 悦郎	淀姫	新潟県	ラブラドル	50(26)
20	千葉 光敏	リン	北海道	ボーダーカラー	50(22) <sup>[8]</sup>
21	紙漉 祐次	D	福岡県	ラブラドル	50(22) <sup>[6]</sup>
22	安川 茂之	Thankyou!!	京都府	NZハンタウェイ	49(31)
23	藤原 伸也	メグ	静岡県	ボーダーカラー	49(27)
24	東 太郎	マーク	東京都	ボーダーカラー	49(21)
25	宮迫 裕二	トラッド	京都府	ボーダーカラー	48(32)
26	柴崎 哲雄	ロールス	埼玉県	ラブラドル	48(30)
27	東條 浩一	ライズ	三重県	ボーダーカラー	48(18)
28	村上 幸三	ゲルファ	岡山県	Gシェパード	47(27)
29	上田 彰	チロウ	大阪府	ボーダーカラー	47(23)
30	大沢 弘和	パン	北海道	ボーダーカラー	47(20)
31	松尾 昭彦	チェス	千葉県	ボーダーカラー	47(19)
32	井原 稔	REX	静岡県	ボーダーカラー	46(29) <sup>[8]</sup>
33	川野辺 正	波平	茨城県	ラブラドル	46(29) <sup>[6]</sup>
34	牧内 章	ジャズミン	東京都	ボーダーカラー	46(26)
35	三木 宏高	ティティ	奈良県	ジャックラッセル	46(24)
36	吉田 政博	タロー	大阪府	ボーダーカラー	45(21)
37	高橋 宏光	ヴァン	高知県	ボーダーカラー	45(18)
38	上田 直志	まさむね	熊本県	ボーダーカラー	44(34)
39	長田 克志	GIN	兵庫県	ボーダーカラー	44(28)
40	渋谷 典代	あんず	岡山県	ラブラドル	44(24)
41	小林 朋一	あずき	兵庫県	エアデルテリア	44(21)
42	山口 正孝	Rusty	兵庫県	ボーダーカラー	43(29)
43	片岡 裕貴	なつめ	香川県	ボーダーカラー	43(25)
44	竹山 和博	RIN	兵庫県	ラブラドル	43(13)
45	徳田 寿幸	チャコ	東京都	ラブラドル	42
46	八幡 恵	TIARA	岩手県	ボーダーカラー	41(24)
47	藤原 洋喜	ニナ	兵庫県	Bタービュレン	41(16)
48	淀川 和馬	天	和歌山県	ボーダーカラー	40(24)
49	伊藤 勤也	LARPH	愛知県	ゴールデン	40(18)
50	加藤 理恵	くらら	熊本県	ボーダーカラー	40(16)
51	島本 富生	Paul	徳島県	ボーダーカラー	39(27)
52	小林 郁夫	ディアラ	広島県	Aシェパード	39(22)
53	藤井 勝明	朱雀	富山県	ボーダーカラー	39(20)
54	亀井 伸介	ウエンディ	三重県	ボーダーカラー	39(16) <sup>[8]</sup>
55	別木 達彦	くらら	大分県	ラブラドル	39(16) <sup>[6]</sup>
56	間 美加	Tachyon	福岡県	ボーダーカラー	39(15)
57	三浦 武也	CHERRY	滋賀県	Gシェパード	39(14)
58	古野 勝久	SARAH	兵庫県	ボーダーカラー	38(26)
59	川島 敏和	モネ	東京都	ボーダーカラー	38(24)
60	西江 義博	さくら	神奈川県	ボーダーカラー	38(23)
61	楠本 治義	シモン	広島県	ラブラドル	38(16)
62	小諸 一男	らん	新潟県	Aシェパード	38(14)
63	神谷まつり	蓮汰	熊本県	ボーダーカラー	38(10)
64	杉田 春美	ドビー	三重県	ボーダーカラー	37(22)
65	谷越 雪絵	Modern	岩手県	ボーダーカラー	37(20)
66	山内 信子	神	愛知県	ボーダーカラー	37(19)
66	寺島 大蔵	あいり	大阪府	ボーダーカラー	37(19)
68	佐野 正俊	CHESTER	茨城県	ボーダーカラー	37(14)
69	高木 康市	ANDY	福岡県	ボーダーカラー	36(20)

70	杉田 健司	チャンプ	三重県	ボーダーカラー	36(18)
71	廣瀬 和利	PAL	広島県	ストロングアイ	36(13)
72	松尾 拓弥	アイリス	大阪府	Aシェパード	35(21)
73	中谷 一友	BoA	大阪府	ボーダーカラー	35(19) <sup>[6]</sup>
74	志茂野千香子	リン	静岡県	Aシェパード	35(19) <sup>[6]</sup>
75	須藤 充	MORE	新潟県	ボーダーカラー	35(17)
76	町田 千成	シェビイ	群馬県	ミックス	34(29)
77	片岡千賀子	ゆ〜り	香川県	ボーダーカラー	34(23)
78	大嶋 匡	アービン	新潟県	ラブラドル	34(22)
79	小田島賢二	チャンス	埼玉県	ミックス	34(18)
80	加藤 幹彦	NARA	兵庫県	ボーダーカラー	34(16)
81	三浦 信市	太郎	愛知県	ボーダーカラー	34(15)
82	川道 卓司	ウズラ	兵庫県	ボーダーカラー	33(20)
83	喜多 秀樹	KOO	岡山県	ボーダーカラー	33(18)
84	杉本美由紀	ウィッシュ	広島県	ラブラドル	33(15)
85	河上 徳次	Lupin	福岡県	ボーダーカラー	32
86	森脇 俊昭	EURO	大阪府	ボーダーカラー	31(25)
87	安田 伸之	POOKY	神奈川県	ボーダーカラー	31(21)
88	池内 実	ルナ	千葉県	ボーダーカラー	30(27)
89	山田 芳樹	Can 2	岐阜県	Aシェパード	30(18) <sup>[6x3]</sup>
90	泉澤 順子	セレブ	岩手県	ボーダーカラー	30(18) <sup>[6x1]</sup>
91	成瀬 正	ロミー	栃木県	ラブラドル	30(17)
92	市川 雅士	早矢	静岡県	ボーダーカラー	30(16)
93	大西 宏昭	アンジュ	奈良県	フラットコートッド	29(23)
94	鈴木建太郎	天羽	愛知県	ボーダーカラー	29(18)
95	小堀 清和	Twister	千葉県	ボーダーカラー	28(22)
96	奥山 正一	フェアリー	岡山県	Wコーギー	28(17)
97	池元 英彦	ブルース	千葉県	ゴールデン	28(11)
98	馬淵 和明	ルキ	京都府	ボーダーカラー	28(10)
99	吉野 義一	プリッサ	熊本県	ボーダーカラー	28(8)
100	山崎 良輝	HASKI	兵庫県	ラブラドル	27(15) <sup>[8]</sup>
101	北村 覚	可憐	京都府	NZハンタウェイ	27(15) <sup>[6]</sup>
102	橋間 秀果	J	東京都	ウイペット	27(14)
103	佐藤 茂	銀香	宮崎県	ボーダーカラー	27(13)
104	永田 香里	DINO	大阪府	Aシェパード	26
105	井上 靖章	CAP	大阪府	Aシェパード	24(16)
106	本郷 雅英	笑	富山県	柴犬	24(14)
107	磯田 正勝	空	奈良県	ラブラドル	24(9)
108	石田 正史	クラリス	滋賀県	ボーダーカラー	24(6)
109	森川 耕平	時雨	和歌山県	ボーダーカラー	23(23)
110	佐々木義貴	セラ	岩手県	ボーダーカラー	23(6)
111	岡本早由利	ごてん	京都府	ボーダーカラー	22(12)
112	品川 勝則	ナイキ	富山県	ラブラドル	22(0)
113	国京 茂	茂香	茨城県	ボーダーカラー	21(17)
114	嶋田 和憲	REX	神奈川県	ボーダーカラー	21(9)
115	大埜 進	セシル	岐阜県	ボーダーカラー	19(13)
116	楠 典男	サン	三重県	ボーダーカラー	19(7)
117	海保 正親	ラッキー	千葉県	ゴールデン	18(12)
118	磯田美佐枝	華	奈良県	ラブラドル	18(7)
119	佐久間正和	アクセル	神奈川県	ボーダーカラー	13(6)
119	深見 早苗	ポポ	岐阜県	Wコーギー	13(6)
121	正木 啓子	さくら	奈良県	フラットコートッド	11
122	高橋 毅一	クリス	神奈川県	ボーダーカラー	8
123	山崎 光	サンダーボルト桃花	高知県	ボーダーカラー	6
124	佐野 桂祐	Peko	新潟県	ボーダーカラー	—

## 10.8 ユースオープンの部チャンピオン決定戦(団体戦)

1	埼玉県	菊地 真	ソラン	ボーダーカラー	52.2
		柴崎 哲雄	ロールス	ラブラドル	
		後藤 公彦	雅楽	ボーダーカラー	
		長谷川政代	ビーチ♪	ボーダーカラー	
		小田島賢二	チャンス	ミックス	
2	北海道	大沢 弘和	パン	ボーダーカラー	48.5
		千葉 光敏	リン	ボーダーカラー	
		高木 康市	ANDY	ボーダーカラー	
3	福岡県	紙漉 祐次	D	ラブラドル	43.4
		島津加奈子	アスラン	ボーダーカラー	
		間 美加	Tachyon	ボーダーカラー	
		河上 徳次	Lupin	ボーダーカラー	



10.8 シニアドッグの部チャンピオン決定戦

1	村上 幸三	ゲルファ	岡山県	Gシェパード	84
2	水越 徹	せれ	東京都	ボーダーコリー	75
3	安川 茂之	ジャスティ	京都府	ラブラドル	53
4	上田 直志	ももこ	熊本県	ラブラドル	71
5	木村 均	ラディ	熊本県	ラブラドル	65
6	仲林 亜美	ラブ	愛知県	ラブラドル	47
7	近藤 高弘	クッキー	広島県	ラブラドル	45(30)
8	上田 直志	みなみ	熊本県	ラブラドル	45(27)
9	間 禎永	Ash	福岡県	ボーダーコリー	44
10	田淵 義博	KNIGHT	兵庫県	Aシェパード	42
11	井上 弘之	DIZZY	東京都	ボーダーコリー	39(24)
12	大島 敏正	ベル	愛知県	ラブラドル	39(17) <sup>[6x3]</sup>
13	須藤 充	CHIT	新潟県	ミックス	39(17) <sup>[6x2]</sup>
14	小林 郁夫	ハッピー	広島県	Aシェパード	37
15	富永 和彦	ライリ	奈良県	E Sスパニエル	24(16)
16	池元 英彦	ブルース	千葉県	ゴールデン	24(8)
17	山田ヒロ子	CrazyMax	岐阜県	ボーダーコリー	23
18	杉本 繁郎	バーディー	北海道	ラブラドル	22

10.8 ペアの部チャンピオン決定戦

1	横山まゆみ 高橋 宏光	ヴァン	高知県	ボーダーコリー	87
2	遠山 修子 木村 均	GRATIA	熊本県	ボーダーコリー	83
3	中村 信子 中村 裕司	フラッシュ	千葉県	ボーダーコリー	73
4	米谷 好江 上田 彰	チロウ	大阪府	ボーダーコリー	37
5	水越 里絵 水越 徹	ふりちゃん	東京都	グローネンダール	36
6	山田 教子 嶋田 和憲	MEL	神奈川県	NZハンタウェイ	34
6	仲 真巨 仲 雅弘	ルース	埼玉県	グローネンダール	34
6	杉本美由紀 杉本 芳春	ウィッシュ	広島県	ラブラドル	34
9	国京 公美 国京 茂	茂香	茨城県	ボーダーコリー	33
10	仲林 亜美 仲林 謙治	ロブロス	愛知県	ドーベルマン	32
10	渋谷 典代 渋谷 功	あんず	岡山県	ラブラドル	32
12	森川 綾 三崎 彰午	向日葵	和歌山県	ボーダーコリー	27
13	加藤 理恵 野口まどか	ナティー	熊本県	ラブラドル	25
14	佐野 桂祐 佐野 良恵	Peko	新潟県	ボーダーコリー	13
15	古野 溪太郎 古野 勝久	SARAH	兵庫県	ボーダーコリー	12

10.9 フリーフライトチャンピオンシップ

1	林 康男	愛鈴	静岡県	ラブラドル	72.29
2	石田 義弘	Rusty	神奈川県	ボーダーコリー	68.78
3	難波 輝一	Maggy	神奈川県	ボーダーコリー	67.82
4	早川 利幸	BEAT	千葉県	ボーダーコリー	66.93
5	千葉 光敏	マジック	北海道	ボーダーコリー	62.05
6	倉科 政文	ティナ	長野県	Aシェパード	59.27
7	井原 稔	REX	静岡県	ボーダーコリー	58.76
8	間 美加	Grass	福岡県	ボーダーコリー	58.26
9	松尾 至	NOVA	長崎県	ボーダーコリー	57.36
10	原 英雄	パトラ	滋賀県	ボーダーコリー	57.14
11	杉本 繁郎	グレース	北海道	ボーダーコリー	56.84
12	黒田 昌克	シャオロン	兵庫県	ボーダーコリー	56.79
13	加藤 昌宏	Lespua	埼玉県	Aシェパード	48.73
14	倉科 純子	りん	長野県	ボーダーコリー	48.40
15	山崎 秀和	HAPPY	神奈川県	ラブラドル	47.48
16	山下 英樹	くう	東京都	ボーダーコリー	46.99
17	辻 恵	PANN	神奈川県	ボーダーコリー	46.05
18	渡邊 賢次	CONNY	茨城県	Aシェパード	45.74
19	石井 勝久	天	大阪府	Aシェパード	43.04
20	田淵 義博	SOPHIA	兵庫県	ボーダーコリー	42.76
21	福尾 光一	RUNA	岡山県	ラブラドル	38.04

10.9 スモールドッグチャンピオンシップ

1	上田 昌二	ルナ	兵庫県	ジャックラッセル	76
2	植田 幸男	バニラ	神奈川県	Wコーギー	73
3	藤原 親	ハジメ	東京都	Wコーギー	71
4	三木 宏高	ティティ	奈良県	ジャックラッセル	68(24)
5	長橋 哲哉	チョコビ	埼玉県	Wコーギー	68(22)
6	梅田 良平	コニー	大阪府	Wコーギー	36(22)
7	宮原 悦子	ハリ	福島県	Wコーギー	36(18)
8	倉田 達郎	ガンジー	山口県	Wコーギー	36(12)
9	加藤 宣文	なな	千葉県	ミックス	35
10	畔出 裕隆	Brian	東京都	ジャックラッセル	32(16)
11	深見 秀隆	ポポ	岐阜県	Wコーギー	32(15)
12	後藤 公彦	鷹	埼玉県	Wコーギー	30
13	吉岡 達浩	ダーズリン	岡山県	Wコーギー	26
14	溝尾 雅広	エリス	広島県	Wコーギー	25
15	横田 裕二	れもん	埼玉県	Wコーギー	24
16	溝尾 雅広	Luz	広島県	コイケルホンティエ	23
17	木村 宏	マル	東京都	Wコーギー	22(22)
18	林田 知穂	FALCO	東京都	Wコーギー	22(10)
19	四方田 暁美	太陽	熊本県	Wコーギー	21
20	藤岡 耕治	白足袋小一郎	茨城県	Wコーギー	20
21	岡本 邦宏	ショコラ	兵庫県	Wコーギー	19
22	小島 宏允	リリィ	京都府	Wコーギー	18
23	藤岡 耕治	白足袋小十郎	茨城県	Wコーギー	17
24	本郷 雅英	笑	富山県	柴犬	12
25	宮川 浩一	もね	東京都	Wコーギー	8
25	大麻 洋之	ファア	神奈川県	Wコーギー	8
27	古東 優子	Guy-Sport	大阪府	Wコーギー	6

10.9 ジャパンファイナル2005 記念大会

1	望月 昭吾	FLY	静岡県	ボーダーコリー	114
2	西山 哲也	ハンター	兵庫県	ボーダーコリー	100
3	田中 安夫	エアリアル	群馬県	ラブラドル	98



## 10.10 グランドチャンピオンシップ

1	間 禎永	Grass	福岡県	ボーダーコリー	113
2	加藤 典一	富士丸	東京都	ボーダーコリー	110
3	木村 均	グラーチア	熊本県	ボーダーコリー	109
4	田口 佳奈	SENNA	岡山県	ボーダーコリー	106
5	新倉 謙吾	音々	北海道	ボーダーコリー	100
6	宮迫 裕二	アイビー	京都府	ボーダーコリー	88
7	友田 裕輔	リラ	奈良県	ラブラドル	74
8	五十嵐 誠	チョッパー	茨城県	ボーダーコリー	65(38)
9	田中 安夫	エアウイング	群馬県	ラブラドル	65(34)
10	青柳 洋平	スヌーピー	北海道	ボーダーコリー	65(29)
11	島本 圭悟	Beak	徳島県	ボーダーコリー	64(39)
12	加部 真巳	Mai	大阪府	ラブラドル	64(35)
13	稲葉 秀昭	ウィンク	滋賀県	ボーダーコリー	64(34)
14	河瀬 重治	ラン	富山県	ラブラドル	64(32)
15	松尾 至	NOVA	長崎県	ボーダーコリー	63(38)
16	笠原 崇司	銀河	群馬県	ボーダーコリー	63(31)
17	小峰 泉	けちゃっぷ	埼玉県	ボーダーコリー	62(32)
18	望月 昭吾	FLY	静岡県	ボーダーコリー	62(30)
19	西山 哲也	ハンター	兵庫県	ボーダーコリー	61
20	四方 田竜	太陽	熊本県	Wコーギー	60(32)
21	野呂瀬さゆり	PLIER	神奈川県	ボーダーコリー	60(28)
22	森 稔之	MISIA	神奈川県	ボーダーコリー	59(30) <sup>[8]</sup>
23	中川 成人	クララ	茨城県	ボーダーコリー	59(30) <sup>[6]</sup>
24	野呂瀬さゆり	PASSER	神奈川県	ボーダーコリー	58(35)
25	小山 隆	DERRINGER	東京都	グローネンダール	58(26)
26	横山 泰久	ナミ	高知県	ボーダーコリー	57(37)
27	山口 裕二	こうめ	神奈川県	ラブラドル	57(36)
28	仲林 謙治	ロブロス	愛知県	ドーベルマン	56(24)
29	杉本 繁郎	555	北海道	ボーダーコリー	56(22)
30	水越 徹	せれ	東京都	ボーダーコリー	54(24)
31	野呂瀬郁夫	PASSER	神奈川県	ボーダーコリー	54(22)
32	福本 義裕	ミニオン	茨城県	ボーダーコリー	53(32) <sup>[8x4]</sup>
33	榊原 吉隆	ファン・ディアス	愛知県	ボーダーコリー	53(32) <sup>[8x2]</sup>
34	西山 祐真	サリー	兵庫県	ボーダーコリー	53(21)
35	田口 久善	LUKE	岡山県	ボーダーコリー	51
36	井上 弘之	ゆふ	東京都	ボーダーコリー	50(27)
37	眞田 知博	Alliecha	東京都	ミックス	50(23)
38	小井 正	セベリアーノ	大阪府	ボーダーコリー	50(20)
39	加藤 徹哉	LYNX	宮城県	ボーダーコリー	48(33)
40	坂口 裕生	うらん	静岡県	ボーダーコリー	48(22)
41	三本 欽麗	Raystar・Hose	東京都	ボーダーコリー	48(20)
42	小寺 賢	LAH!	東京都	ボーダーコリー	47(22)
43	団野 悦郎	ケープ	大阪府	ラブラドル	47(19)
44	仲 雅弘	ルース	埼玉県	グローネンダール	46(28)
45	永田 亨	WillieKirkland	神奈川県	ボーダーコリー	46(24)
46	橋間 正信	J	東京都	ウイバット	46(21)
47	水越 徹	ぶりちゃん	東京都	グローネンダール	46(14)
48	庄田 和弘	サーージュ	埼玉県	ボーダーコリー	45
49	丸島 康裕	JENNIFER	千葉県	ボーダーコリー	44(26)
50	大沢 弘和	サム	北海道	ボーダーコリー	44(20)
51	小寺 賢	L E E	東京都	ボーダーコリー	43
52	久保 晋一	みゆら	大阪府	ボーダーコリー	42
53	間 禎永	Tachyon	福岡県	ボーダーコリー	41
54	田淵 義博	SOPHIA	兵庫県	ボーダーコリー	39
55	団野 悦郎	Hitomi	大阪府	ラブラドル	37
56	佐々木義貴	チェック	岩手県	ボーダーコリー	36
57	山本 健二	Lucia	長崎県	ボーダーコリー	35
58	西山 哲也	CIEL	兵庫県	ボーダーコリー	34
59	田中 安夫	エアリアル	群馬県	ラブラドル	33
60	東 敏昭	マーク	東京都	ボーダーコリー	31
61	田中 勝則	遥	兵庫県	ボーダーコリー	29
62	森川 耕平	弁慶	和歌山県	ボーダーコリー	28
63	空野 正志	さいら	兵庫県	ラブラドル	22
64	島本 圭悟	Paul	徳島県	ボーダーコリー	21

## 10.10 レディースチャンピオンシップ

1	田口 佳奈	LUKE	岡山県	ボーダーコリー	110
2	青柳 愛佳	シェビー	北海道	ボーダーコリー	95
3	青柳 愛佳	ライフ	北海道	NZハンタウェイ	92
4	福本 紗良	フィーユ	茨城県	ボーダーコリー	90
5	稲葉 有紀	ウィンク	滋賀県	ボーダーコリー	88
6	永田 明美	WillieKirkland	神奈川県	ボーダーコリー	86
7	西山いづみ	サリー	兵庫県	ボーダーコリー	78
8	杉本 恵子	555	北海道	ボーダーコリー	74
9	四方田眺美	太陽	熊本県	Wコーギー	55
10	横山まゆみ	ナミ	高知県	ボーダーコリー	54
11	間 美加	Grass	福岡県	ボーダーコリー	53
12	森川 綾	向日葵	和歌山県	ボーダーコリー	52(32)
13	長谷川政代	ビーチ♪	埼玉県	ボーダーコリー	52(26)
14	仲 真巨	ルース	埼玉県	グローネンダール	50
15	浜出 理加	ウナ	宮城県	ボーダーコリー	47(25)
16	杉本 美里	芽衣	北海道	ラブラドル	47(19)
17	佐々木美香	チェック	岩手県	ボーダーコリー	46(20) <sup>[8]</sup>
18	福本 聡子	NOA	茨城県	ボーダーコリー	46(20) <sup>[6]</sup>
19	片岡千賀子	ゆ〜り	香川県	ボーダーコリー	43
20	福本 紗良	ラッキー	茨城県	ボーダーコリー	42(25)
21	島津加奈子	ニオロ	福岡県	ボーダーコリー	42(24)
22	井上 裕子	ゆふ	東京都	ボーダーコリー	42(19)
23	米谷 好江	ライア	大阪府	ボーダーコリー	41(24) <sup>[6x4]</sup>
24	松澤 典子	グレイス	兵庫県	フアラオハウンド	41(24) <sup>[8x2]</sup>
25	永田 明美	RandyBass	神奈川県	ボーダーコリー	41(23)
26	渋谷 典代	あんず	岡山県	ラブラドル	40(22)
27	松尾 直美	NOVA	長崎県	ボーダーコリー	40(16)
28	国京 公美	茂香	茨城県	ボーダーコリー	39(24)
29	永田 香里	DINO	大阪府	Aシェパード	39(19)
30	仲林 亜美	ラブ	愛知県	ラブラドル	39(15)
31	加藤 静穂	ASH	宮城県	ボーダーコリー	38(32)
32	中川 祐子	クララ	茨城県	ボーダーコリー	38(20)
33	三浦 杏奈	CHERRY	滋賀県	Gシェパード	38(18)
34	安心院真代	ジュリア	岐阜県	ボーダーコリー	38(14)
35	平岩砂也子	スカリー	群馬県	ボーダーコリー	38(12)
36	片岡千賀子	なつめ	香川県	ボーダーコリー	37
37	嶋田真希子	MEL	神奈川県	ボーダーコリー	36
38	杉本 恵子	ミキちゃん	北海道	ラブラドル	34
39	平岩砂也子	セーナ・シェリー	群馬県	ボーダーコリー	32(20)
40	福本 聡子	ミニオン	茨城県	ボーダーコリー	32(10)
41	山田ヒロ子	Can?	岐阜県	Aシェパード	31
42	小田島ヒロ子	びいちゃん	埼玉県	ゴールデン	30
43	江村富美子	リオ	静岡県	ボーダーコリー	28
44	須貝ひとみ	タフィー	岐阜県	ボーダーコリー	25
45	仲林 亜美	トリトン	愛知県	ドーベルマン	23
46	安田 教子	ガーフィー	神奈川県	ボーダーコリー	19
47	福尾 美穂	BRUCE	岡山県	ボーダーコリー	—

## 10.10 こどもの部チャンピオン決定戦(低学年)

1	高木 海斗	ANDY	福岡県	ボーダーコリー	99
2	横山 大河	ナミ	高知県	ボーダーコリー	84
3	嶋田 歩優	M E L	神奈川県	NZハンタウェイ	80
4	八幡 鈴香	TIARA	岩手県	ボーダーコリー	54
5	福本巴亜人	ラッキー	茨城県	ボーダーコリー	51
6	山本 愛麗	クライム	長崎県	ボーダーコリー	50
7	古野溪太郎	SARAH	兵庫県	ボーダーコリー	39
8	三浦 菜林	CHERRY	滋賀県	Gシェパード	36
9	佐久間祥子	アクセル	神奈川県	ボーダーコリー	30
10	村田 亘	ベティ	愛知県	ボーダーコリー	23

## 10.10 こどもの部チャンピオン決定戦(高学年)

1	辻際 尚子	アル	兵庫県	ボーダーコリー	110
2	三浦 杏奈	CHERRY	滋賀県	Gシェパード	100
3	田中 絢菜	LILA	栃木県	ボーダーコリー	90
4	本庄 美加	アニー	広島県	ゴールデン	60
5	空野 渚	さいら	兵庫県	ラブラドル	58
6	竹山 高司	リアル	兵庫県	ラブラドル	57
7	若林 風花	ひので	東京都	ボーダーコリー	56
8	藁島 敬	ヴィヴィ	岐阜県	ボーダーコリー	36
9	菊地 美成	ソラン	埼玉県	ボーダーコリー	34



## 日本フリスビードッグ協会

〒951-8133 新潟県新潟市川岸町3丁目17番29号

TEL.025-234-2100 FAX.025-234-2101

**URL** <http://www.frisbeedog.co.jp/>